

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年 1月12日

協議会名: 生坂村地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
生坂村	系統名: 犀川線 運行区間: 古坂～明科駅ほか	利用促進に係る啓発の推進や利用者ニーズを活かした運行形態とするよう村内イベントでのPRや地区懇談会での事業説明を行い要望等の把握に努めた。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。地域一体となった取組を通じて利用促進が図られている。	A 目標である実証運行開始時の利用数23,886人の維持に対し、本年度は33,666人となり、目標は達成された。住民の通学・通院・買い物・通勤に極めて必要な事業であると判断する。	今後も引き続き、利用促進に係る啓発等を推進し、必要に応じて利用者のニーズを活かした運行形態やダイヤの見直しを行い目標達成に向け持続可能な運行に努めていく。
生坂村	系統名: 北回り 運行区間: 北部	利用促進に係る啓発の推進や利用者ニーズを活かした運行形態とするよう村内イベントでのPRやアンケート調査、地区懇談会での事業説明を行うとともに、チラシ配布による周知を図った。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。地域一体となった取組を通じて利用促進が図られている。	B 目標である実証運行開始時の利用数2,268人の維持に対し、本年度は1,981人△12%と目標を下回った。チラシ配布によるPR等を行うが利用者が減少した。しかし村内でも特に過疎化・高齢化の進む北部地域は、山間地がほとんどで犀川線との接続や日常の移動手段として欠かす事のできない路線であるため、必要な事業であると判断する。	今後も引き続き、利用促進に向けたチラシの配布等の啓発等を推進し、利用者のニーズを活かした運行形態やダイヤの見直しを行い目標達成に向け持続可能な運行に努めていく。
生坂村	系統名: 南回り 運行区間: 南部	利用促進に係る啓発の推進や利用者ニーズを活かした運行形態とするよう村内イベントでのPRやアンケート調査、地区懇談会での事業説明を行うとともに、チラシ配布による周知を図った。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。地域一体となった取組を通じて利用促進が図られている。	A 目標である実証運行開始時の利用数235人の維持に対し、本年度は264人と、目標は達成された。犀川線との接続利用や日常の移動手段として必要な事業であると判断する。	今後も引き続き、利用促進に係る啓発等を推進し、必要に応じて利用者のニーズを活かした運行形態やダイヤの見直しを行い目標達成に向け持続可能な運行に努めていく。
生坂村	系統名: 26便 運行区間: 明科駅～古坂	利用促進に係る啓発の推進や利用者ニーズを活かした運行形態とするよう村内イベントでのPRやアンケート調査、地区懇談会での事業説明を行うとともに、チラシ配布による周知を図った。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。地域一体となった取組を通じて利用促進が図られている。	A 高校生専用の最終便として平成22年に新規に運行された便で、目標である運行当初の利用者数266人の維持に対し、本年度は406人と、目標は達成された。部活帰りの高校生の通学に必要な事業であると判断する。	今後も引き続き、利用促進に係る啓発等を推進し、必要に応じて利用者のニーズを活かした運行形態やダイヤの見直しを行い目標達成に向け持続可能な運行に努めていく。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年 1月12日

協議会名:	生坂村地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>当村は、過疎化・少子高齢化が進む人口1900人に満たない小規模な山村であり、平成8年に民間路線バスの廃止を受け、以降村営バスの運行を進めてきたものの、幹線道路を中心とした運行に限定されたため、奥まった集落までのきめ細かなサポートや利用者のニーズに沿うことが難しく、利用者の減少と収支状況の悪化が深刻化した。そのため、村では平成20年度に生坂村地域公共交通総合連携計画を策定し、翌年度から3カ年の実証運行を経て、平成24年度から本格運行を実施した。この計画により、交通不便者の要望にできる限り沿いながら村の財政に見合った公共交通体系とすることとし、JR明科駅までの幹線道路を運行する「犀川線」と、村内の集落間をきめ細かく運行する「周回デマンドバス」の運行を行い、利用者のニーズに沿った利用しやすいものとしている。</p> <p>犀川線は、村内はもとよりJR明科駅までの間を結ぶことにより、通学・通勤・通院・買い物など村民の生活に密着した重要な路線であるとともに、周回デマンドバスも犀川線との接続利用や集落内をきめ細かく運行し、主に高齢者の日常の移動手段として生活に欠かす事の出来ないものとなっている。このため、今後も「地域内フィーダー系統」として位置づけ、事業継続するものとする。</p>